Ⅳ－54

散歩行動からみた道路の環境整備に関する考察

秋田大学　正　員　清水浩志郎
秋田大学　正　員　木村　一裕
秋田大学　学生員　阿彦　勝博

1.　はじめに

近年、道路整備においてゆとり、うるおいの必要性や高齢者や障害者が気軽に外出できるような道路整備の必要性など、身近な生活道路の質的充実が求められている。またジョギングや散歩など、健康などのために使われる道路としても、生活道路の快適性、多様性が求められてきている。本研究は、秋田市で散歩している方々を対象にアンケート調査を実施し、散歩行動から道路の使われ方の違いによる利用者のニーズの違いを把握し、歩行環境のあり方について考察することを目的としている。

2.　アンケート調査の概要

秋田市の公園ならびに住宅地等15カ所で早朝と昼の時間帯に散歩をしている方々２９６名にアンケート調査を行った。調査票は個々で郵送してもらい回収した。有効回答数は２３２票(７８．３%)であった。

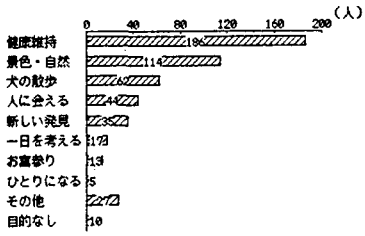
3.　散歩の実態

(1) 回答者の属性

散歩をしている人の年齢層は60～69歳が最も多く、60歳以上の高齢者は４９．１%を占めている。また職業では、無職が29.3%、有職者が４５．７%であった。職種では管理系事務系の人が多く７６．７%を占めた。

(2) 散歩の実態

図－１は散歩目的を示したものである。散歩の目的としては「健康維持」(８０．２%)「自然を楽しむ」(４９．１%)の割合が高い。そこで以下では散歩目的を健康維持、自然探索、その他の３つに、また地域を住宅地区、風致地区の２つに分けて分析を行った。



図－１　散歩目的

地区別、目的別の平均散歩時間、平均散歩距離を表－１に示した。両地区とも自然探索目的で、歩行距離は短いが所要時間は長く、時間を多くかけてゆっくり散歩していることがわかる。

表－１　平均時間と平均距離

	住宅地区		風致地区	
	健康	自然	健康	自然
時間（分）	50	49	62	65
距離（キロ）	4.75	3.71	4.37	4.27

表－２では散歩の実態としていくつかの項目に関するデータを示している。散歩の時間帯は、朝５～６時が最も多く全体の６２．３%を占めた。散歩時の交通量は少ないと答えた人が全体の77.6%を占め、交通量の少ない早朝に散歩が集中して行われている。また、散歩相手がいる人は３５．３%で、おもに夫婦で散歩を楽しんでいる人が多くみられた。

表－２　散歩の実態

項目		割合
時間帯	５～６時	62.3 %
交通量	少ない	77.6 %
相手	あり	35.3 %
目的地	あり	健：82.5 % 自：72.2 %
ルート変化	変化なし	健：51.0 % 自：22.2 %

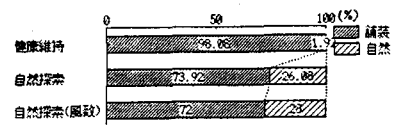
その他の分析結果として、ほとんどの人が学校や公園、河川堤防、神社などの目的地を持っていることが分かった。また目的地となる公園や河川などが近くにある場合は、比較的に距離は短く、新興住宅地など公園などが近くにないところでは、歩行距離は長くなる傾向にある。目的地までのルート変化では、健康維持目的の人はルートが決まっている人が多いのに対し、自然探索目的ではルートはいつも違うと答えた人が多く、ルートは固定せずその日の気分で散歩をする傾向にある。

健康維持目的では、歩道整備がある程度整っていれば散歩が可能であり、また風致地区の場合は散歩に適した環境がすでに整備されている。そこで以下では住宅地の自然探索目的の人が散歩道や関連施設などについてどのようなニーズを持っているのかについて分析する。

(3) 自然探索目的の散歩実態

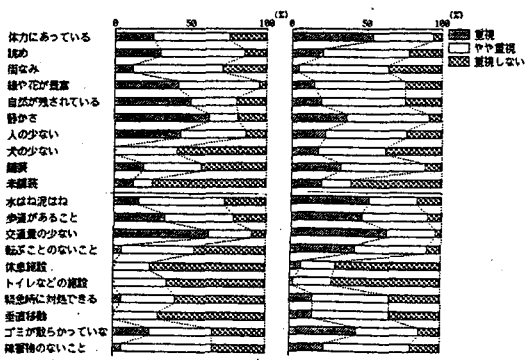
住宅地の散歩目的は、健康維持目的の割合が49.1%、自然探索目的の割合は21.7%に対し、風致地区ではそれぞれ42.5%、45.2%となっている。(図－2)

散歩道の路面状況は、自然的な道を歩いている人の割合が健康維持目的の人と比べて多く、風致地区の自然探索目的と同程度の割合となっており、ルート選定に工夫しているものと思われる。



図－2　散歩道の路面状況

ルートを選ぶときに重視する項目としては図－3で示すように、健康維持目的と比べて自然探索目的では「静けさ」、「自然が残されている」、「人が少ない」などを重視している割合が高く、逆に「犬がいない」、「休息施設がある」、「トイレなどの施設がある」、「未舗装である」などはあまり重視されていない。

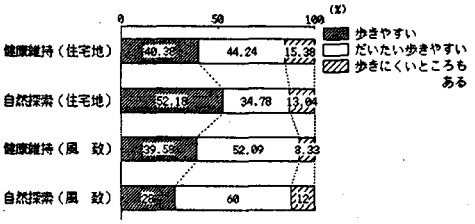


自然探索　　健康維持

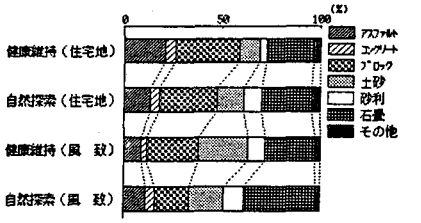
図－3　住宅地区の重視点

(4) 路面、施設に対する要望と評価

図－4に散歩の満足度を示した。住宅地区の自然探索の満足度は他と比べ若干高く、散歩ルートを工夫することでそれなりに満足していることが分かる。図－5には歩いてみたい路面の要望を示している。住宅地の自然探索目的の人は健康維持目的と比べ「石畳道」、「土砂道」、「砂利道」のいわゆる「自然的な道」を望んでいる。このような要望があるのにもかかわらず、ルート選定時の重視点では「未舗装であること」が低いのは、要望しても住宅地内に自然道らしい道が少なくなり、選びたくてもできない結果が現れているのではないかと考えられる。

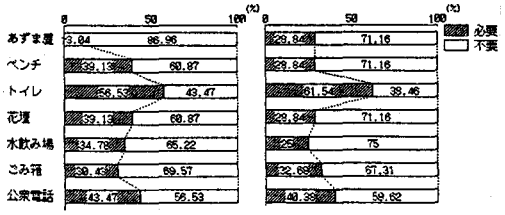


図－4　地区別、目的別の満足度



図－5　地区別、目的別の路面要望

図－6には設置を希望する施設を示している。他と比べ全体的に要求度が高く、特に「ベンチ」、「花壇」、「水飲み場」を求める割合が高い。



自然探索　　健康維持

図－6　住宅地区の施設要望

4. おわりに

以上の分析から、散策路としての歩道が生活において重要な要素となっていることが明らかになった。散歩の実態としては、住宅地区において近くに公園などがないために散歩距離が長くなる傾向にあることもわかった。したがって今後は住宅地区内の拠点としての公園等の整備だけでなく、そこに至るまでの自然的な道や、適度に休むことのできる施設や環境の整備など、歩行者が楽しめるような配慮もあわせてすすめる必要があると考える。